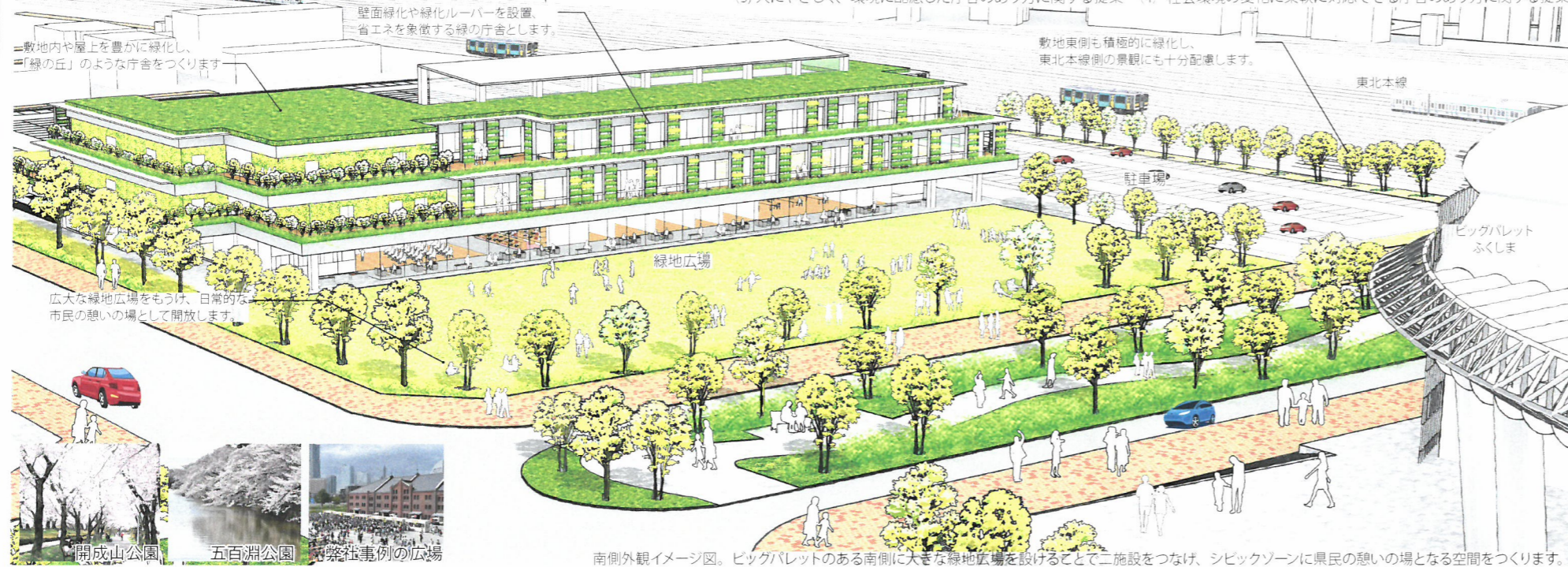
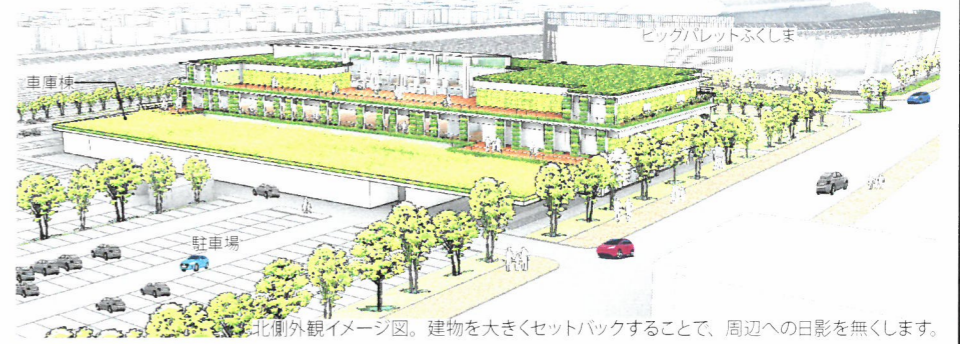


緑地広場と一体化する「緑の丘」のような庁舎

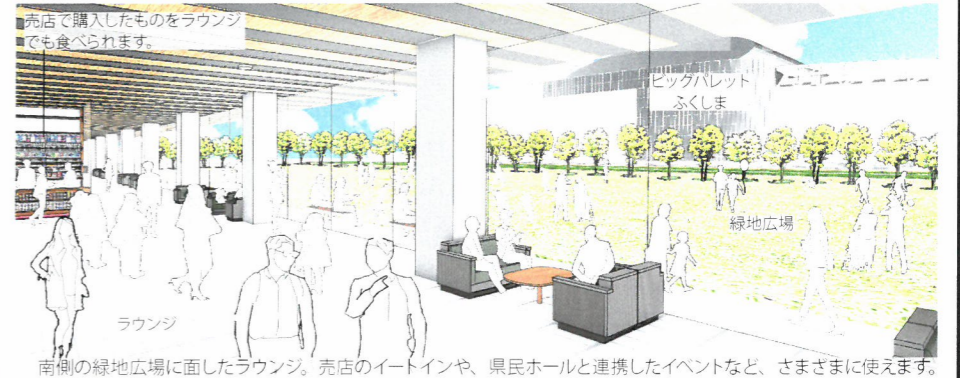
提案課題 (1) 県民の利便性向上及び快適な執務空間の確保に関する提案 (2) 県民の安全・安心の拠点となる庁舎のあり方に関する提案 (3) 人にやさしく、環境に配慮した庁舎のあり方に関する提案 (4) 社会環境の変化に柔軟に対応できる庁舎のあり方に関する提案



南側外観イメージ図。ビッグパレットのある南側に大きな緑地広場を設けることで二施設をつなげ、シビックゾーンに県民の憩いの場となる空間をつくり出す。



北側外観イメージ図。建物を大きくセットバックすることで、周辺への日影を無くします。



南側の緑地広場に面したラウンジ。売店のイトインや、県民ホールと連携したイベントなど、さまざまに使えます。

01 ビッグパレットと連続する、緑の風景と賑わいをつくる

提案課題 (1) (3)

郡山は大きな公園や桜の名所が多くありますが、敷地周辺は少し寂しい印象があります。スポーツやイベントに使える大きな緑地広場をつくり、市民の憩いの場を生み出します。私たちは人々にぎわう様々な広場をつくってきた実績があり、その経験を生かします。(写真右:600万人の来館者に対応できる5000㎡の広場/弊社事例)

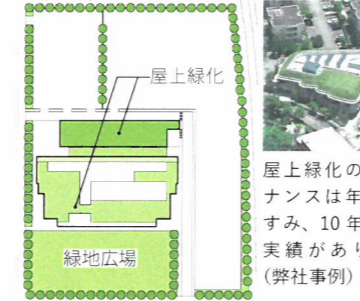
緑地広場は45m×105mとし、サッカーなどにも使えます。南側道路も使えば、イベント時は105m×103mの広場となります。(人が目視でき、歩いてみたいと思う距離=近景の限界が100mです。)これ以上離れると(200m中景～400m遠景)距離がありすぎて二施設の連携がなくなります。ビッグパレットと適切な距離感で建物を配置します。

02 緑地広場と一体化し、周辺への影響を最小限にする低層の庁舎

提案課題 (1) (3)

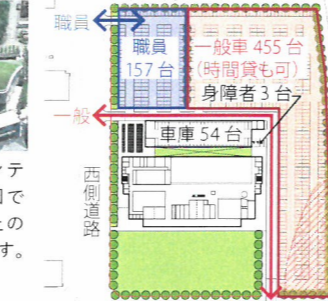


01 敷地周囲を徹底的に緑化し緑地広場に開かれた庁舎



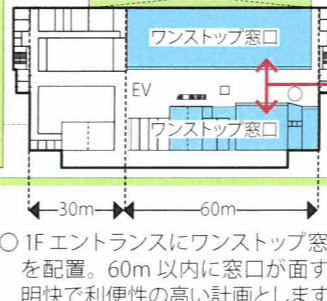
敷地内を徹底的に緑化し市民の憩いとなる緑の公園のような施設とします。

02 ビッグパレットと繋がる機能的な駐車場

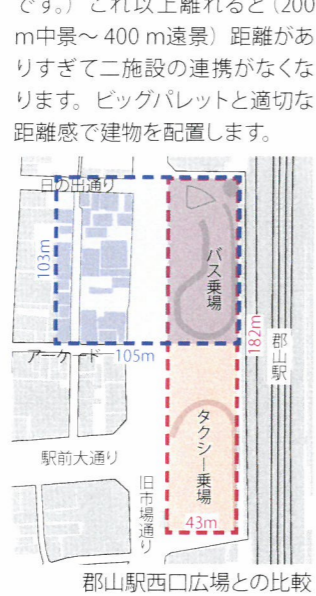
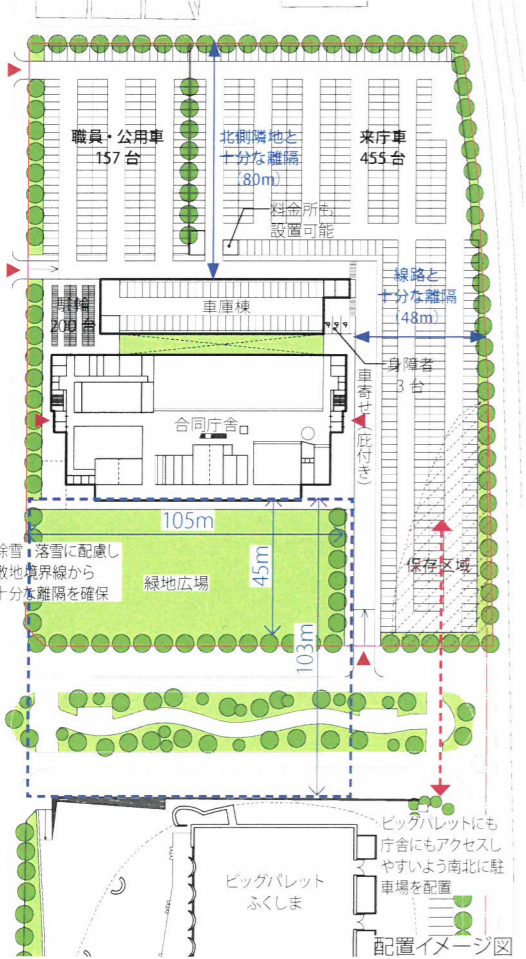


ビッグパレットに駐車場が近接。来庁車/公用車を明確に分離。

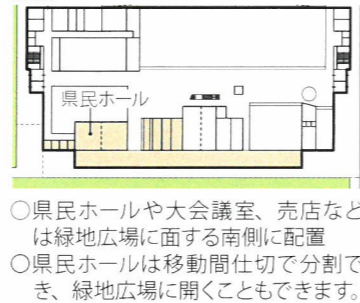
03 低層でも窓口に近いワンストップカウンター



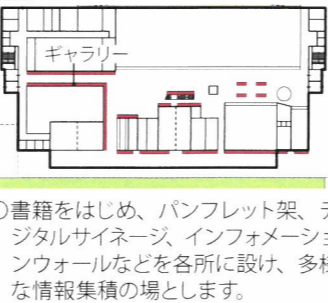
○1F エントランスにワンストップ窓口を配置。60m以内に窓口が面する明快で利便性の高い計画とします。



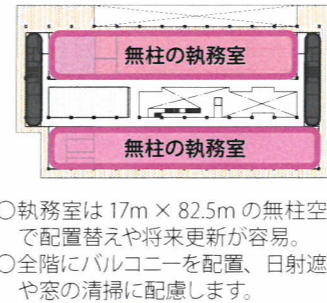
04 緑地広場にひらく来庁客向け諸室



05 5万冊の本と情報が集う「まちのリビング」



06 フレキシブルで働きやすいバルコニー付きの執務室

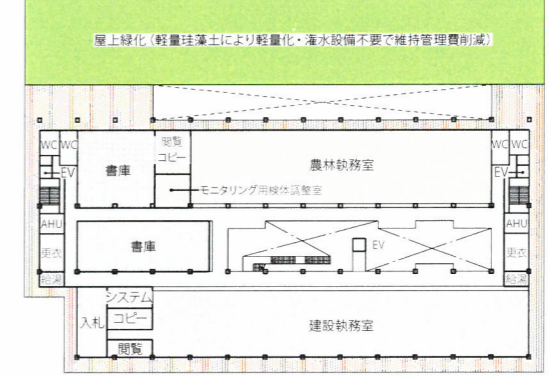


1F ・地方振興局・教育事務所・パスポート・県民ホール・売店



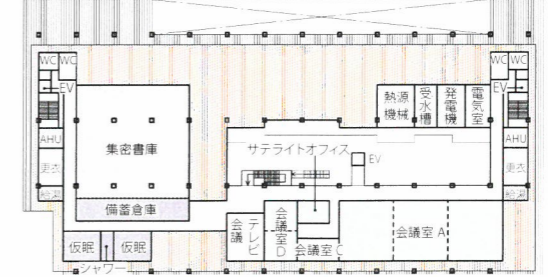
ワンストップ窓口
○エントランスに面したワンストップ窓口
○来庁者用2か所、職員用2か所の入口を設置。
○キッズスペース、授乳室、子ども用WCを確保
市民利用部門の充実
○緑地広場に開いた県民ホール。売店やラウンジは休日利用可
○約5万冊の壁面書架や、デジタルサイネージによる様々な情報を提供

2F ・農林事務所・建設事務所・書庫・屋上庭園



動きやすい環境整備
○17mスパンでフレキシブルに利用できる無柱の執務室
○西からの季節風の影響を受けにくいコア配置
○各階に、コピー、給湯、書庫、会議、更衣室等を確保
○農林、建設事務所などは組織ごとに全てワンフロアで計画
○市民・職員のリフレッシュの場となる屋上庭園

3F ・会議室・危機管理機能・機械室

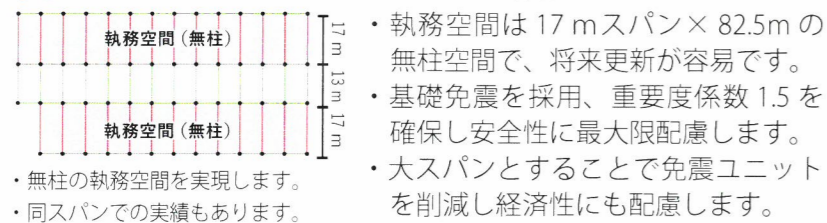


災害対策本部
○緑地広場を見渡せる配置
○会議室と災害部門を近接配置
柔軟に使える会議室
○可動間仕切りで分割可能
○EVに近接
最上階の機械室
○水没などのない最上階に計画

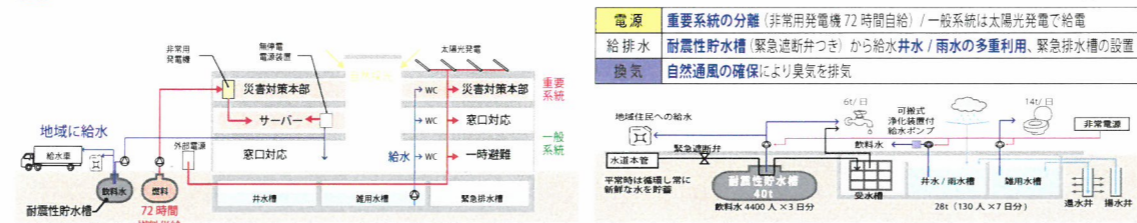
03 自然光の入る明るい待合スペース/カフェ、書架、キッズスペースなど、市民の憩いの場をつくります 提案課題 (1-2)(3)(4)



04 構造計画/重要度係数 1.5 を確保 提案課題 (2)(4)



05 災害時に 72 時間自給可能なライフライン/十分な設備バックアップを確保します 提案課題 (4)



06 環境と人にやさしい SDGs 庁舎/パッシブ (建築面)・アクティブ (設備面) の両面からライフサイクルコスト・CO2 (目標 40%) を削減します 提案課題 (1)(3)(4)

1 底による直射日光遮蔽で夏季の日射負荷を 50%削減 (当社事例)

2 温度差換気 (コロナ対策)
中間期のゼロ空調を目指す
コロナ対策として機械換気も併用し 12回/h 以上の換気を確認

3 太陽光発電
災害時にも電力供給
クリーンエネルギーを活用し SDGs 貢献

4 自然採光・自然通風
3D 通風シミュレーションにより
中間期ゼロ空調を目標

5 細やかなユニバーサルデザイン
大きく見やすいサイン
デジタルサイネージも検討。
パーティションを設置し
プライバシー確保
車椅子対応カウンター
滑りにくい床材の選定

6 タスクイベント照明
通常 750lx → 350lx 程度

7 LED・高効率機器採用
消費電力削減

8 敷地内の積極的緑化
照り返し防止

9 高性能ガラス・高断熱サッシ採用
受熱・放熱量の多い窓面を高断熱化

10 外壁・屋根の高断熱化
空調負荷低減

11 雨水利用
WC 洗浄や植栽に活用

12 ナイトバージ
夜間外気導入

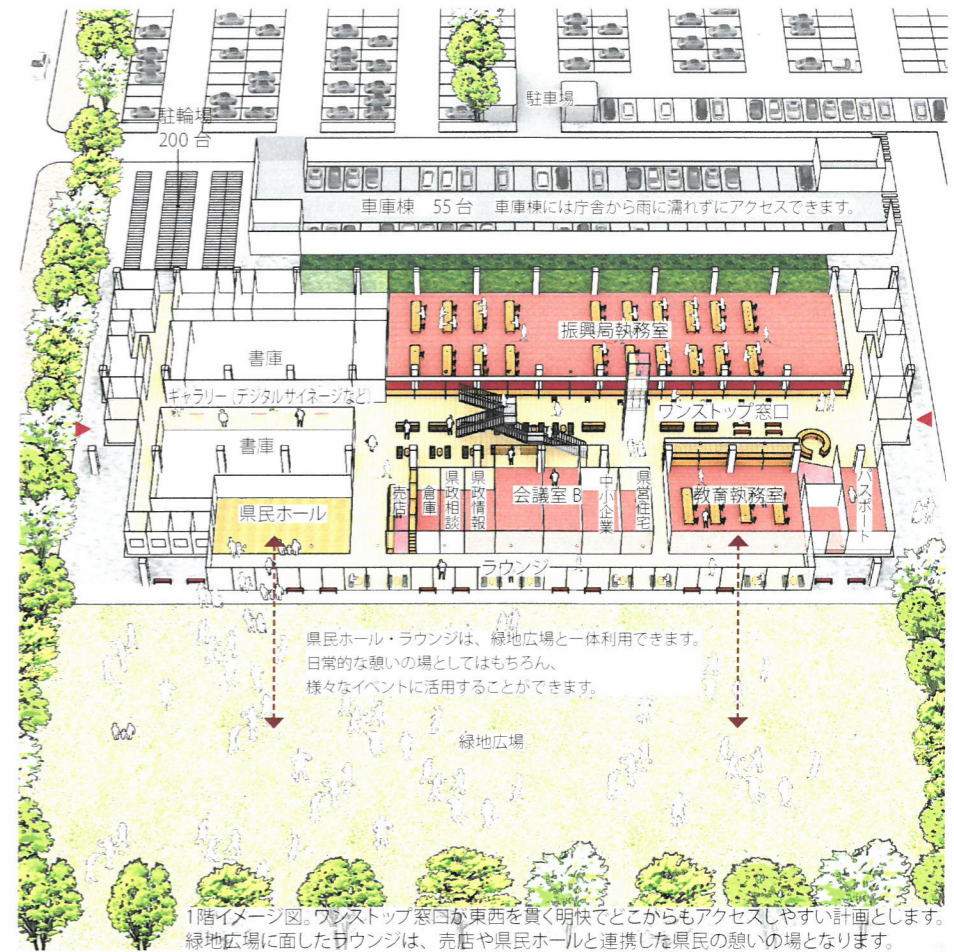
13 エネルギー見える化
BEMS の採用

14 アースピット
予冷・予熱した外気を導入

15 水光熱費 30%削減
タイマー制御や高効率機器の採用

16 消費エネルギーの削減で「ZEB Ready」を確保
建築・設備両面の省エネにより、「ZEB Ready」を確保し、自然エネルギーの活用で「ZEB Nearly」～「ZEB」を目指します。補助金事業等も積極活用します。

断面イメージ図



07 大きな緑地広場を活用し、避難と支援を両立する施設計画 提案課題 (4)

弊事例

私達の設計した O 市公共施設は東日本大震災の際に約 500 人が 10ヶ月避難しました。救援活動支援の経験を活かし、長期復旧活動ができる計画とします。

08 LCCO2 の 40%以上削減目標

環境負荷削減手法	CO2 削減量	削減率	備考
標準仕様 CO2 排出量	205,000	100%	床面積 10500㎡と設定
1 自然採光	-1,410	-0.7%	中間期の共用部ゼロ空調
2 太陽光発電	-4,715	-2.3%	太陽光パネル設置 (検討による)
3 自然採光	-1,615	-0.8%	トップライトによる自然採光で昼間消灯
4 ヒートピット	-4,280	-2.1%	外気負荷低減
5 高効率照明・照明制御	-21,500	-10.4%	LED、高効率照明、人感センサー
6 熱源の高効率化	-4,650	-2.3%	高効率機器、ハイブリッド熱源の採用
7 熱源水の高温差仕様	-3,300	-1.6%	熱源水の高温差仕様で機送動力低減
8 外気取入 CO2 制御	-17,325	-8.4%	室内 CO2 濃度を検知、外気取入量を低減
合計	-82,205	-40.1%	※ CO2 削減量の単位: kg-CO2/年

09 豊富な同種施設設計実績を生かしたコスト管理

・基本計画、基本設計の各段階においても数量拾いを含めた概算を行い、正確なコストマネージメントを行っていきま。物価変動も考慮し、予算に対して 2% ほど余裕をみて積算しています。今後必要に応じ更なるコスト削減も可能です。

直接工事費	内訳
直接仮設工事	111,160,000
土工事	100,950,000
地業工事	238,500,000
鉄筋工事	269,960,000
コンクリート工事	285,840,000
型枠工事	301,720,000
フェンス工事	26,996,000
鉄骨工事	381,120,000
仮設仮設工事	132,500,000
PC 工事	4,764,000
防水工事	38,112,000
石・タイル工事	111,160,000
木工事	63,520,000
金属工事	63,000,000
左官工事	9,000,000
木製建具工事	25,408,000
全属建具工事	498,632,000
ガラス工事	95,280,000
塗装工事	31,760,000
内外装工事	238,200,000
家具工事	57,168,000
生上ユニット工事	158,800,000
屋上緑化工事	250,000,000
昇降機工事	45,000,000
電気設備工事	676,885,000
機械設備工事	913,100,000
外構工事	460,102,500
車庫棟	622,875,000
総計	7,841,256,170

※経費・税込